

ヤングケアラー支援に 関する取組について

こども支援課
令和5年7月26日

目次

1. 入間市ヤングケアラーの実態調査結果
2. 実態調査を踏まえた取り組み方針
3. 令和3.4年度の取り組み状況
4. 取り組む中での課題、見えてきたこと
5. 令和5年度の取り組み
6. 概要説明
 - 学校との連携
 - ヤングケアラーヘルパー派遣事業
 - ヤングケアラー配食支援事業



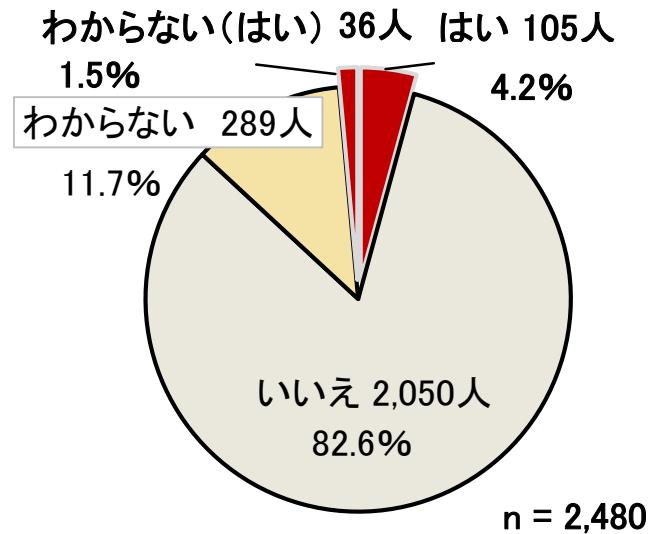
1. 入間市ヤングケアラー実態調査結果 (R3)

～ヤングケアラーの存在～

入間市 : 5.7%

17.5人に
1人

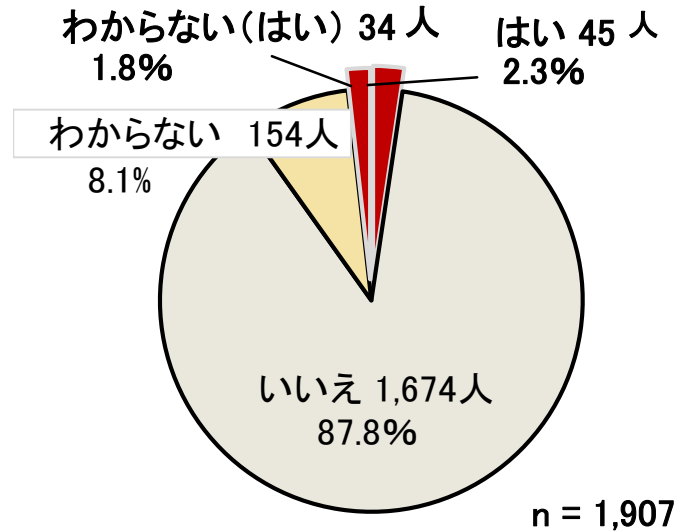
【小学生】



入間市 : 4.1%

24.4人に
1人

【中学生】

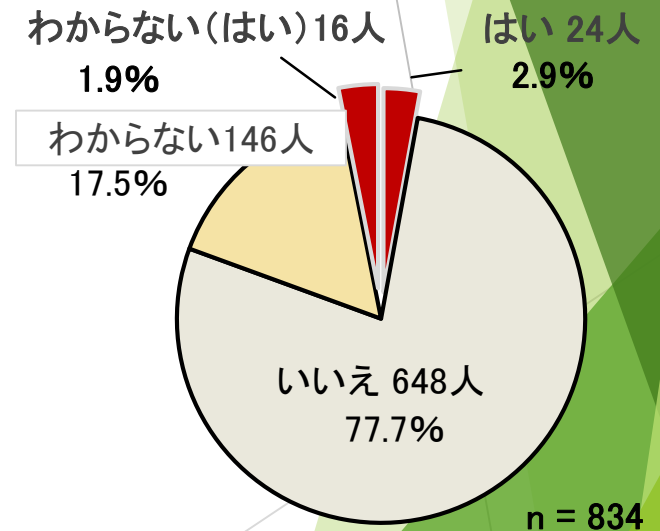


国調査 : 5.7%

入間市 : 4.8%

20.8人に
1人

【高校生】



国調査 : 4.1%
埼玉県調査 : 4.1%

～ケアの内容～

小学生

n = 141

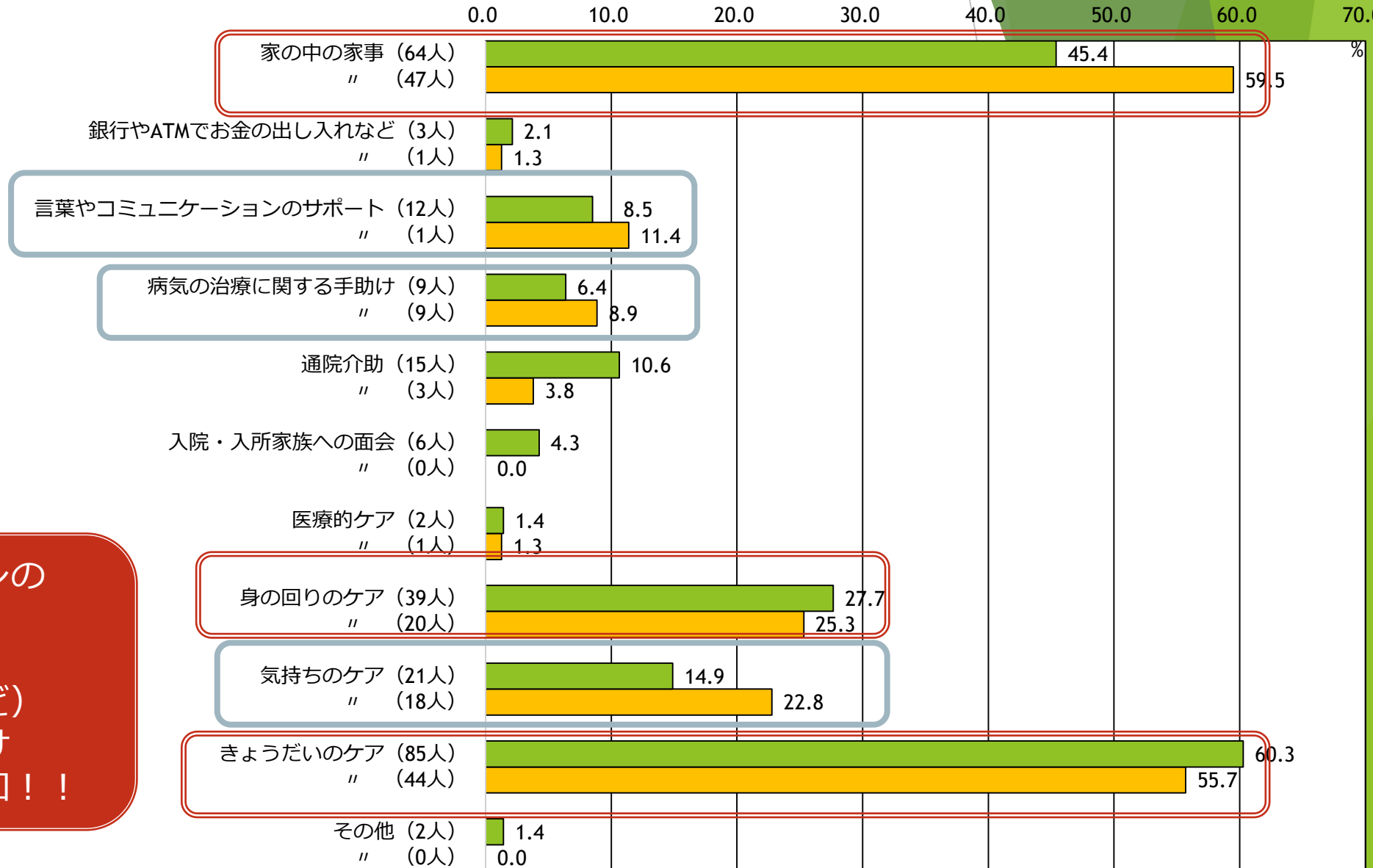
中学生

n = 79

○きょうだいのケア
○家の中の家事
○身の回りのケア
など**日常生活に直結**

年齢があがると・・・

○言葉やコミュニケーションの
サポート（通訳など）
○気持のケア
（話を聞く、元気づけるなど）
○病気の治療に関する手助け
（服薬確認など）**が増加！！**

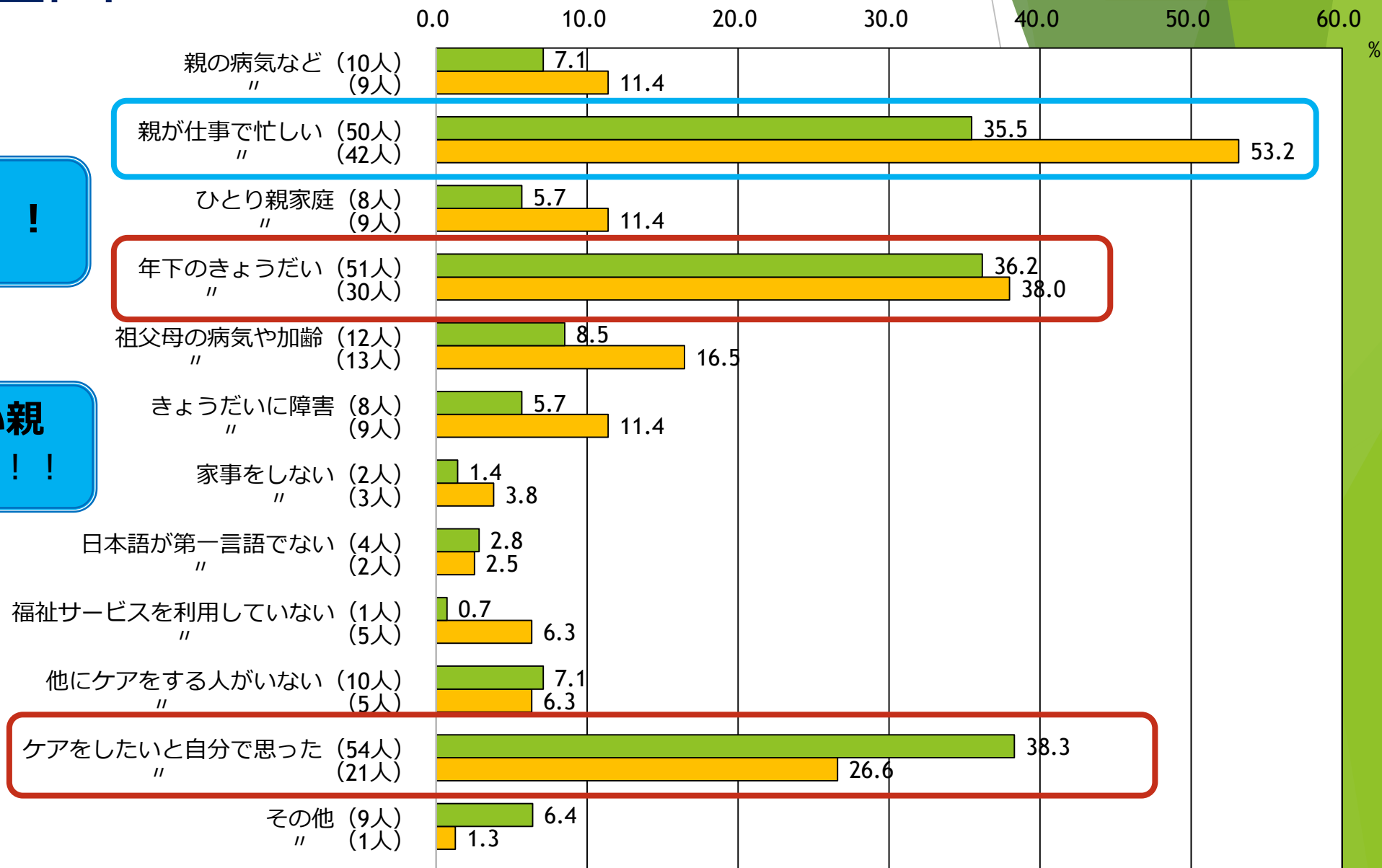


～ケアの理由～

小学生 n = 141
中学生 n = 79

小学生は、自分の意思！！

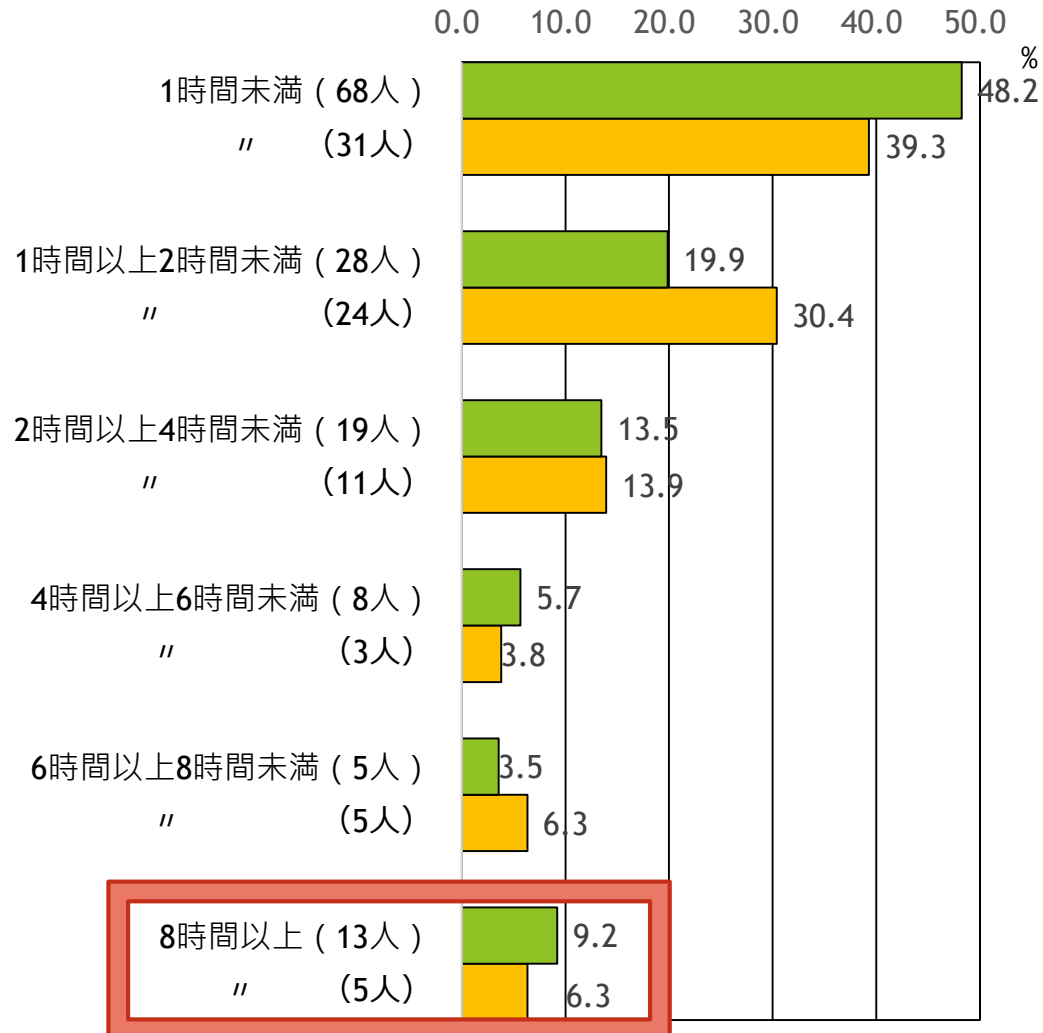
中学生は、仕事で忙しい親
に代わり必要に迫られて！！



～ケアに費やしている時間～

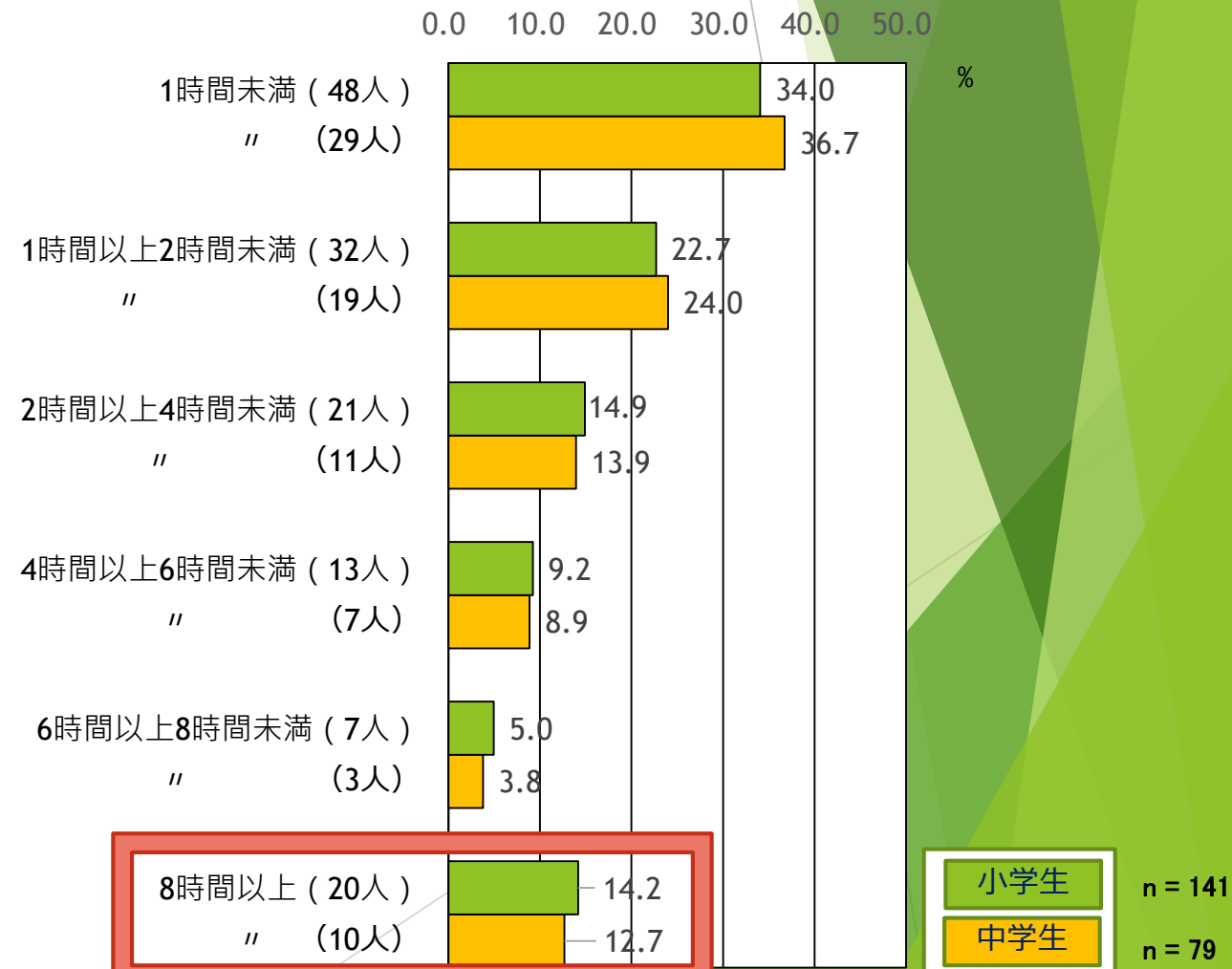
【平日】

平日・休日ともに「1時間未満」が一番多かった。



【休日】

休日に長時間のケアをしている傾向が見られた。2時間以上の割合が40%前後を占めている。



～日常生活への影響～

小学生

n = 141

中学生

n = 79

小・中学生ともに「影響なし」

が一番多い

○ストレスを感じている

○宿題・勉強をする時間がない

○睡眠不足 などの影響も！！

埼玉県調査：①孤独を感じる

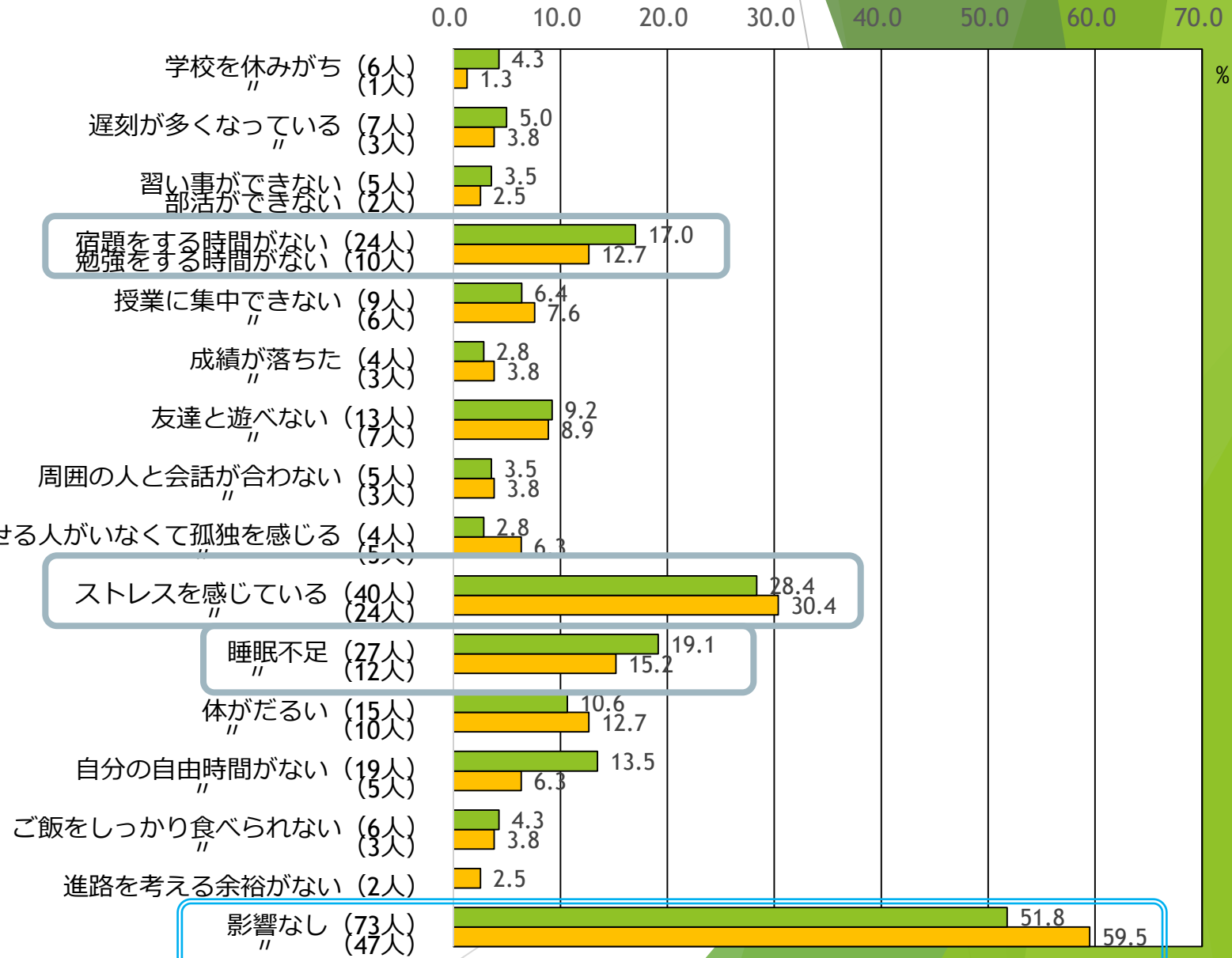
(高校生)

②ストレスを感じている

③勉強する時間がない

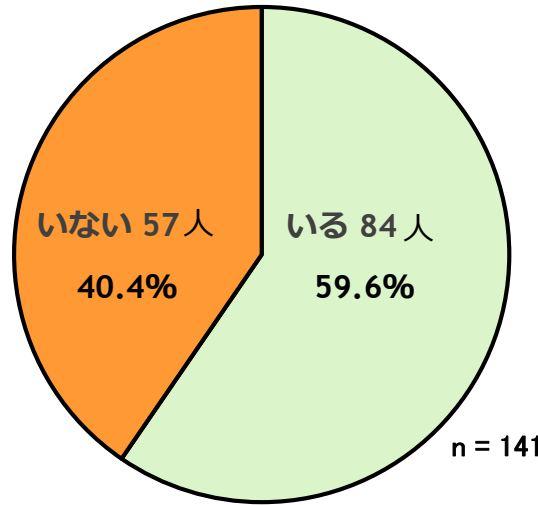
④自分の自由時間がない

⑤睡眠不足



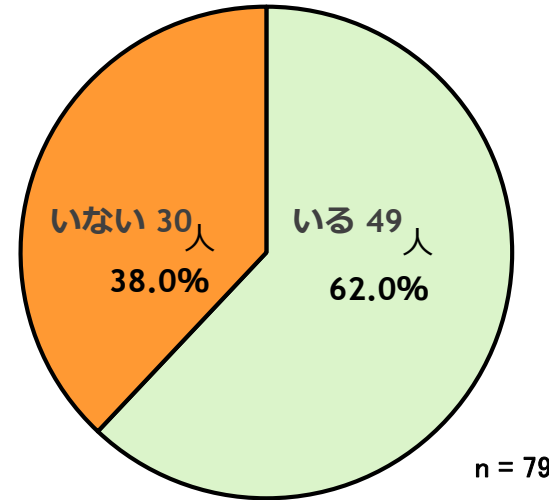
～相談相手の有無～

【小学生】



「いる」6割
「いない」4割

【中学生】



埼玉県調査（高校生）は、
いる「58.0%」
いない「25.4%」



相談相手は、小・中学生ともに **「母親」**
が最も多く、次いで「父親」「友達」など
身近な人が多かった。

また、学校関係者や家族以外の大人を相談
相手としている人は少なかった。

国調査：相談相手
(中学生)

- ① 家族
- ② 友達
- ③ 学校の先生（養護教諭以外）

～望むサポート～

学習
サポート

相談の場

見守って
くれる人

自分の時間
の確保

将来の
相談

	小学生	中学生	国調査（中学生）
1	宿題や勉強のサポート (29.1%)	特になし (31.6%)	特になし (45.8%)
2	特になし (28.4%)	宿題や勉強のサポート (22.8%)	学習のサポート (21.3%)
3	自由時間が増えるサポート (16.3%)	・困った時に相談できるスタッフや場所 ・経済的な支援 (20.3%)	自由に使える時間 (19.4%)
4	分かりやすい説明 (15.6%)		将来の相談（進路・就職） (16.3%)
5	分からない (13.5%)	・信頼して見守ってくれる大人 ・分からない (17.7%)	自分の状況について話を 聞いてほしい (12.9%)

信頼して見守ってくれる、必要とするときに
相談・支援してくれる
「場所・人材の確保」が求められている

2. 実態調査を踏まえた取り組み方針

- (1) 周知・啓発
- (2) 相談体制の整備
- (3) 関係機関との連携、支援体制の整備
- (4) 条例制定



3. 令和3.4年度の取り組み状況

(1) 周知・啓発

◎ 高校・中学生・小学生にパンフレットを配布

高校・中学：令和3年11月、小学：令和4年1月に
埼玉県が配布

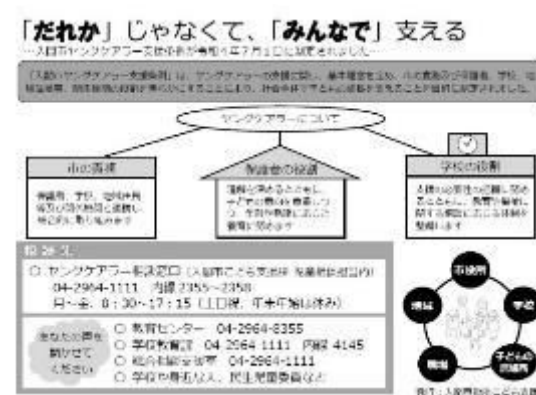


◎ 一般向けリーフレットを配布

令和4年1月に埼玉県、6月に厚労省が配布



◎ 小学生・中学生保護者向けチラシを配布：令和4年7月



◎ 市民向け折込チラシを配布（読売新聞）

令和4年7月24日



(1) 周知・啓発 つづき

◎研修会、講演会、講義

- ・要保護児童対策地域協議会構成員向け研修会：令和4年1月、11月
- ・市民向け講演会：令和4年2月
- ・市職員向け講義：令和4年4月

◎市公式ホームページへの掲載

◎出前講座の実施

◎その他

- ・ケアラー月間での周知・啓発（令和4年11月）
- ・地域ラジオ局で放送



(2) 相談体制の整備

- ◎ ヤングケアラーに関する相談窓口の設置：令和3年12月1日
- ◎ 総合相談支援室の設置：令和4年4月1日（ケアラーの相談を担当）
- ◎ ヤングケアラー支援マニュアル作成：令和4年4月

(3) 関係機関との連携、支援体制の整備

- ◎ 各施設を相談担当者がまわり、顔の見える関係づくり
※市内小中学校にてスクリーニングを実施
- ◎ 市関係課連携会議の開催：令和4年度
- ◎ 埼玉県ヤングケアラー推進協議会への出席
～埼玉県におけるヤングケアラー支援スタートブック発行～

(3) 関係機関との連携 つづき



【学校・民生児童委員・主任児童委員との連携会議の様子】

【総合相談支援室の相談員との
連携会議の様子】



【埼玉県社協とオンライン会議の様子】



(4) 条例制定



◎入間市ヤングケアラー支援条例制定

：令和4年7月 1 日施行（令和4年6月議会で提案）

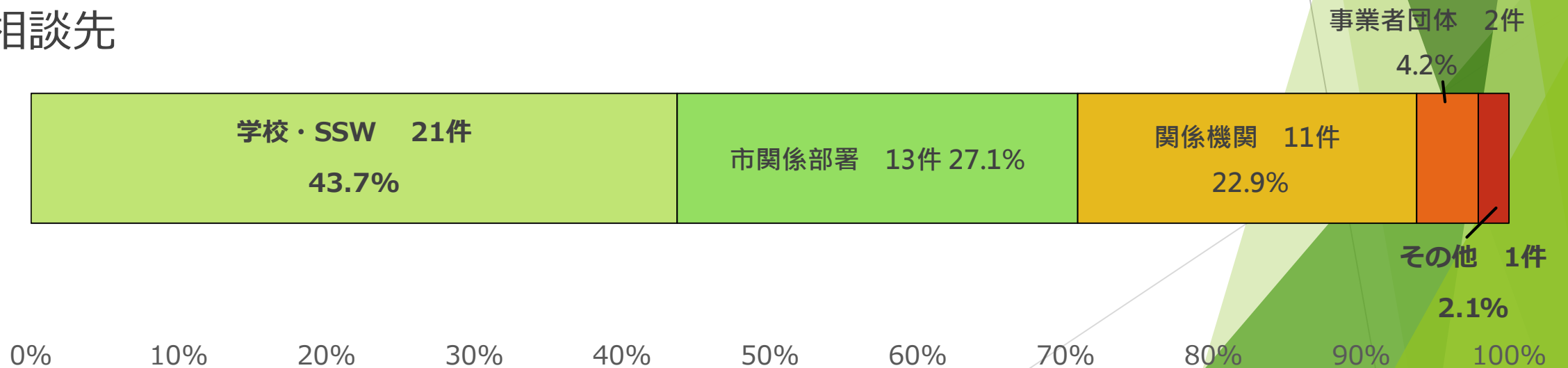


令和4年度 ヤングケアラー相談窓口実績

▶ 相談受理件数：48世帯

(計：140人 18歳未満 128人 18歳以上 12人)

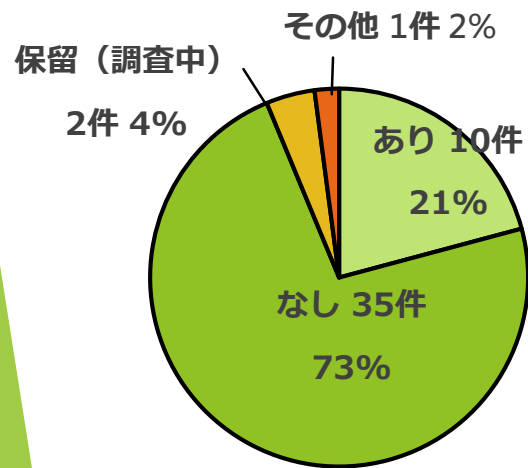
▶ 相談先



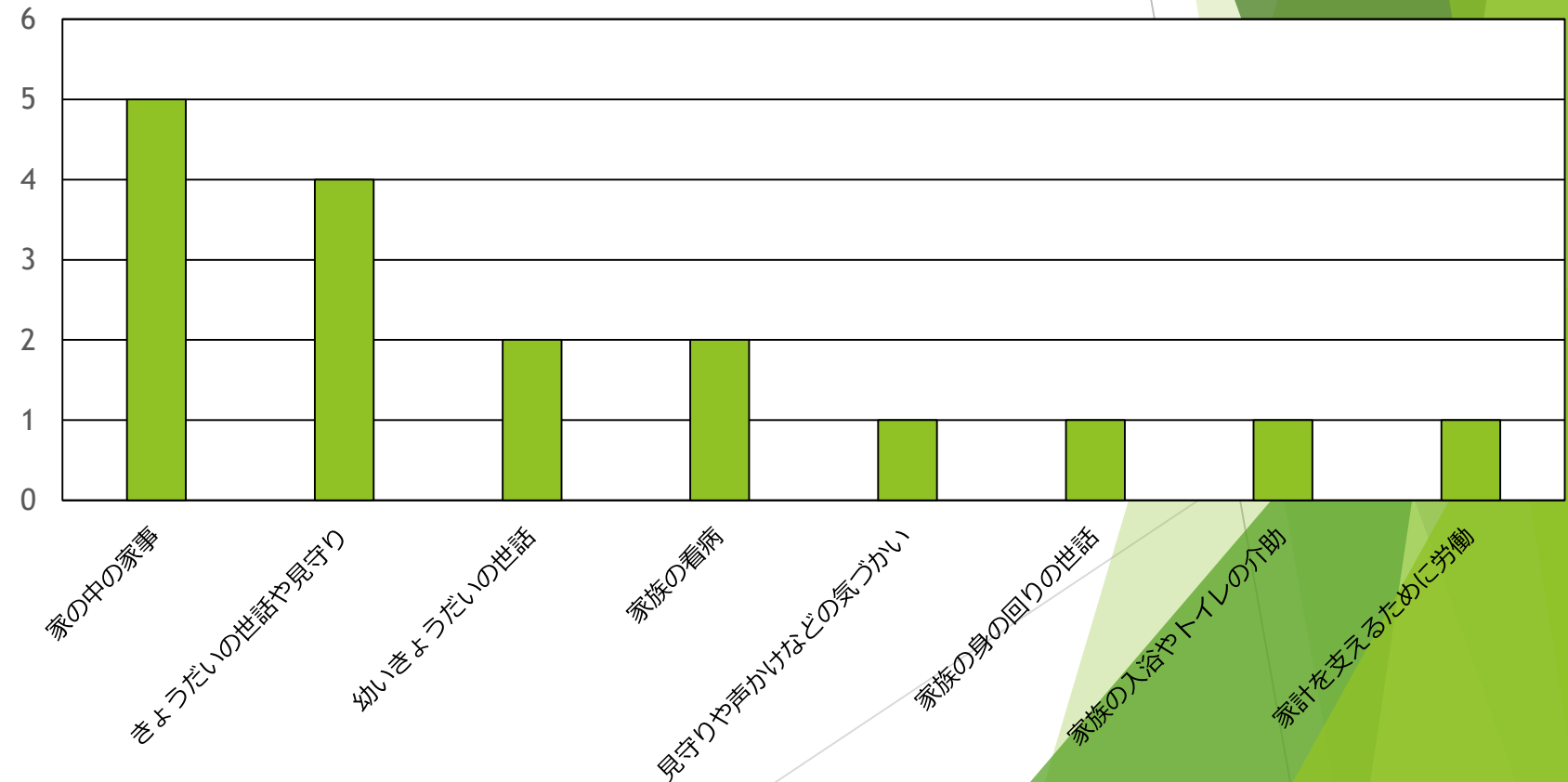
受理会議の結果（ヤングケアラーの可能性）と 担っていたケア

受理会議の結果

（ヤングケアラーの可能性）



担っているケア・サポート



4. 取り組む中での課題、見えてきたこと

◎ 個人情報の取り扱い

◎ 本人、保護者からの相談なし

◎ 支援拒否への対応

◎ ヤングケアラーから若者ケアラー支援への移行





見えてきたこと



- ▶ ヤングケアラー = 支援が必要な子どもではなく、

家族のケアのことで悩みを抱えている子ども

= 支援が必要な子ども

子どもの人権、心身の不調の有無、こどもの意向に注視

望まれている人・支援

同じ境遇の人

・ピアサポート
(共感・情報交換等)



同年代の仲間
(状況を知らない)

・素の1人の人として
過ごせる場所・人



伴走者

・見守り
(気にかけてくれる大人)
・家族調整
・学習サポート
・ライフステージの
サポート (進路決定、
将来の見通し等)

伴走者

について

◎ケアをされる立場にある人と認識し、1人の人として大切にされる経験を！

求められている人

- ・ 定期的に会って話をしてくれる
 - ・ 体調を崩さないように気にかけてくれる
 - ・ ちょっと顔を出して話を聞いてくれる
 - ・ ケア対象者以外の家族にも声をかけてくれる
 - ・ 家族支援、調整をしてくれる
- まずは、他愛のない話から関わりを

身近な大人であって
特別な人である必要
はないよ

信頼して見守ってくれる大人

家族全体を
見ることが大切

信頼関係の構築



- ・ 困った時にいつでも相談できる
（ライフステージで変わる）
- ・ 必要な時に傍にいる存在



5. 令和5年度の取り組み

①市関係課連携会議

②周知・啓発

③講演、講義



④学校との連携（ヤングケアラー・コーディネーターが中心となって）

⑤ヘルパー派遣事業、ヤングケアラー配食支援事業

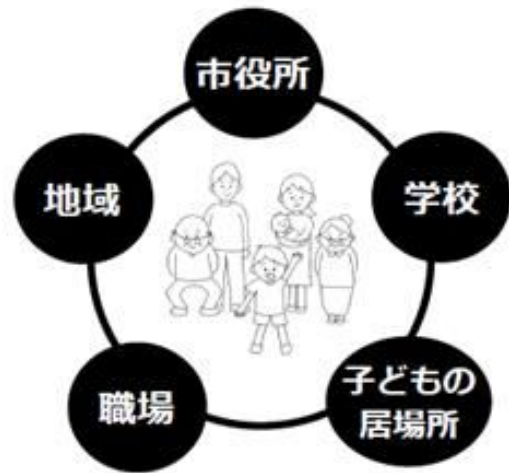
6. 概要説明

○ 学校との連携について

◎ 学校との連携に関するもの

・ 令和5年8月～12月 市内小・中学校訪問（教育委員会の学校訪問に同行）

・ 令和5年9月～ 市内小・中学校における児童・生徒への周知・啓発活動



ヤングケアラー・コーディネーターは、

- ・ こどもの心に寄り添い、相談支援、助言、家庭訪問等を行い、必要な支援（者）に繋がっています。
- ・ 関係者が連携し社会全体でヤングケアラー（家庭）を支えていくために、顔の見える関係性や支援体制の構築づくりを行っていますので、引き続きご協力をお願いします。

○ ヤングケアラーヘルパー派遣事業について

【目 的】 ヤングケアラーの生活における負担を軽減し、（子どもが）健やかに成長できる環境の整備を行う

【対 象】 市内に住所を有する過度な家事や家族等身近な者の世話等を担っているヤングケアラーが属し、事業を実施することによりヤングケアラーの生活状況及び家庭環境の改善が見込まれる家庭

【内 容】 （１）家事 （２）兄弟姉妹の世話 （３）家族（高齢者、障害者等）の介護
（４）学習支援 （５）家庭が抱える不安や悩みの傾聴
（６）前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める支援

【回 数】 １週間に２回以内（１回２時間以内）

【期 間】 ６月以内

【利用料】 無料



○ ヤングケアラーヘルパー派遣事業について

つづき

【利用方法】

- ① 申請書をこども支援課に提出（要事前相談）
- ② 生活状況の把握その他必要な事項の調査を行い、受理会議、ケース会議、ヤングケアラー支援に係る審査会にて利用の可否を決定。
- ③ 詳細内容の協議・計画書の作成
- ④ ヘルパー派遣の利用
- ⑤ モニタリング（適宜、ケース会議・審査会の実施。利用の終了）



○ ヤングケアラー配食支援事業



【目 的】 ヤングケアラー（家庭）に対し配食支援を行うことで、ヤングケアラーが担う負担の軽減を図るとともに、電力、ガス、食料品等の価格高騰から生じる家庭内のストレス緩和の一助を担い、ヤングケアラーが健やかに成長できる環境を整える。

【対 象】 ヤングケアラー（家庭）および調査中または関係性の構築が必要なヤングケアラー（家庭）

【内 容】 ヤングケアラー（家庭）と認定された家庭のうち、配食支援を希望する家庭に対し、関係性のある市関係部署や関係機関、事業者・団体を通じて配食支援（現物給付）を行う。
ヤングケアラーの恐れのある家庭に対し、調査・接点の一助とし、配食支援を希望する家庭に対し配食支援（現物給付）を行う。

【期 間】 令和5年8月～令和6年2月

※回数は特に定めず。



学校と地域保健の連携について

1. 地域診断に基づく学校との連携事業について

【地域保健課の地域診断への取組】

平成29年度より、健康福祉センター内の保健師、精神保健福祉士、管理栄養士、歯科衛生士、健康運動指導士の専門職を地域保健課に集約し、地区担当制を導入したうえでグループリーダーを中心に専門職全体で地域診断に取り組んでいます。

地域診断とは、地区活動、保健サービス等の提供、また、調査研究、統計情報等に基づき、住民の健康状態や生活環境の実態を把握し、健康問題を構成する要素を分析して、地域において取り組むべき健康課題を明らかにし、その健康課題の優先度を判断すること。

【令和4年度 藤沢中学校での取組】

○藤沢地区は、地域診断の結果から、「入間市全体と比較して精神疾患の医療費の割合が多い。」

「他の地区と比較して精神に関する相談が多い。」「自立支援医療受給者の疾病別では気分障害が多い。」という課題が見出されたことから、健康いるま21計画にある「休養・こころの健康」に焦点をあて、若い世代にアプローチすることで、将来自ら健康行動がとれる地域住民を増やし、地域の健康度の向上を目指した取組を展開しています。

○8月：自殺予防週間に合わせて、心の健康に関するキャッチフレーズを藤沢中学校生徒保健委員に考えてもらい本庁に展示をしました。

○9月：保健委員会において「ココロに届く！心の健康講座」を実施しました。

○11月：学校朝会において「Fuzi Project 第3弾」として、保健委員による発表を行い、リーフレット「こころのサインへの気づきと対処方法を学ぼう！」を配布しました。

○11月：藤沢中学校で睡眠の質を高める11項目についてミッションシートを作成し、全校生徒に3日間取り組んでもらいました。

○2月：藤沢中学校新入生保護者会でチラシ「こころとからだの健康バランス」を配布しました。

2. 性教育(プレコンセプションケア)について

【入間市母子愛育会との協働事業「育児体験学習・命の大切さ」について】

- 市内の中学校3年生を対象に、助産師による講話、妊婦さんや父親へのインタビュー動画の視聴を行い、実技の実習として、赤ちゃん人形を使った沐浴体験、妊婦ジャケットを着用する妊婦体験等を実施しています。
- 中学生が妊娠も含めた健康に関する正しい知識を持ち、母性・父性を培うとともに命の大切さについて学習することで、豊かな人間性を育むことができるよう支援しています。
- 令和4年度は、金子中学校、西武中学校、向原中学校、藤沢中学校、東金子中学校、野田中学校の6校で実施しました。
- 令和5年度は、金子中学校、野田中学校、藤沢中学校、向原中学校、上藤沢中学校、東金子中学校、武蔵中学校、西武中学校の8校で実施を予定しています。

3. メンタルヘルスの取組について

- 不登校やひきこもり、精神疾患等のメンタルヘルスの相談について、地区担当保健師や精神保健福祉士が学校や学校教育課、教育センター、こども支援課等と連携しながら対応しています。
- 地域保健課が年6回実施している精神保健カンファレンスに学校や教育センター、学校教育課から事例を提供していただき事例検討を行っています。(令和4年度：3事例提供)
医療、福祉、教育の様々な分野の関係機関の支援者が参加することで、広い視野で多角的にケースを見る機会となり、支援技術の向上につながっています。また、事例検討を通じて、各関係機関の役割を知る機会にもなっています。

精神保健カンファレンスは、精神保健に関する相談事例について、相談経験豊富な専門職(心理相談員または精神保健福祉士)の助言を受けながら、事例検討することにより、市職員や関係機関の職員の相談技術の向上を図ることを目的として実施している。

【課題】

地域保健課業務内容や専門職の職務についての周知不足もあり、連携が図れている学校と、図れていない学校があり、市内全地区での活動には至っていない。